

* 事故原因

9月になってから、自分でコンクリートの階段を作った。1, 2段目 13 c m、3, 4段目 21 c m、5段目 14 c m、斜度 34.4 度、幅 60 c m、段の奥行き 30 c m。

事故の起こった畑は以前水田であり、7, 8年間使っていた。いつも、少しは危ないと思っていたが、特に直そうという意識はなかった。事故後、すぐに階段をつけて直した。

⑤桃畑で左足が桃の古株につまずき転倒し、左足骨折した

(平成24年 1月 午後4時頃、桃畑、男性・70歳)

ご主人が亡くなって4年が経過したが、親戚の人に手伝ってもらい、桃の栽培管理をしている。剪定技術に関する講習会などもあり、要領を覚えると面白くなってきていた。

たまたまその日は友人が来ていたが、友人も剪定するところを見たいということで、一緒に桃畑で剪



定をした。天候は曇り。畑の面積は約2反。家から約500mの畑。できるだけ桃の背丈を伸ばさず、手の届く範囲に仕立ててあり、脚立などは使用していなかった。

少し暗くなってきたので、友人の車が待っている道路まで急いでいこうとして切り株につまずいた。切り株は幾つかあるが、以前義祖父が根元からきれいに切ったもので、枯れ草や土が少し被ると、ちょっと土が膨らんでいるぐらいにしか見えない。

前にのめったとき太ももが内出血をした。血が黒くにじんだ。左足の甲の高いところを骨折した。友人の車ですぐに病院を受診。午後5時を過ぎていたが、たまたま担当してくれた医師が整形外科医だった。レントゲンを撮り骨折が判明。左足根骨骨折、左足関節捻挫。入院はせず、10日間固定した。治癒するまで3か月かかった。その後骨粗鬆症の治療を受けている。

* 事故原因

その辺に切り株があるという意識はあったが、友人が待っていることもあって、「もうちょっと」と焦っており、頭が回らなかった。考え事をしていると、どうも足の運びがすり足になる。足が上がらない。同じように前にも手を骨折したことがある。

つまずいた切り株の直径は34 c m、高さは3 c mであった。古株に印を、マークを付ける

などの工夫をしたい。今は、暗くなってきたら仕事は休むようにしている。

携帯電話は持っているが、仕事るときは邪魔になる。ポケットに入れておくと仕事がつらくなる。そのため、畑仕事るときは持って行かなかった。今回は偶然友人と一緒にいてくれたので助かった。今後は携帯電話を持つことについて考えたいと思う。

牛乳はあまり好きではない。飲むとお腹がゴロゴロする。コーヒーに入れる程度には飲む。Ca錠のサプリメントを飲んでいる。左膝の変形性関節炎もあり、足が痛む。

⑥畑に入るとき、U字溝を飛び越えられず、右足小指骨折

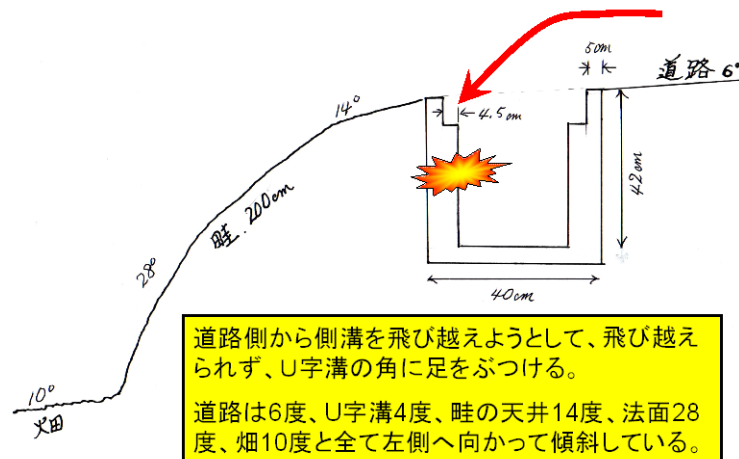
(平成23年 10月 午後3時頃、U字溝、女性・82歳)

午後3時頃、ご主人に車で畑に送ってもらい、畑の土手を鎌で草刈りに出かけた。家から約2kmの約5aの畑で道ばたにある。

車を降りて、畑に入る馬入れまで行けば良かったが、面倒なので、下にあるU字溝を飛び越えて畑に入ろうとしたが、飛び越えられず、U字溝の縁に足をぶつけ、負傷した。ご主人はすでに車で帰ってしまった。

飛び越えられると思ったが、足がU字溝の上段に届かず、下段に引っかかってしまったため、足の小指が折れるような感じがし、足をかばおうとしたために、膝がU字溝の上段に縁にぶつかった。酷く痛い感じがした。しかし、折角来たので畦の草刈りをしてしまおうと約1時間半頑張った。終わる頃に気づくと太ももは内出血が酷く、足の小指も痛かった。

いつもならご主人に迎えに来てもらうのだが、その日に限って、出かけるときに、「帰りにあちこちの畑を見ていくので、迎えに来なくてもいい」と言ってしまった。近くにあった棒を杖代わりに使って足を引きづりながら帰った。普段なら20分で帰れるところを、この時は約1時間かかった。馴染みの人が通りかからないかというかすかな望みはあったが、誰も通りかからなかった。



その日は、痛かったが我慢して眠った。翌日、やはり我慢ができず、ご主人に近くの医院に連れて行ってもらった。小指が骨折していることが分かり、太ももの内出血も酷かったが、痛み止めと注射をした以外は何もしなかった。その後、近くの接骨院で湿布などをしてもらった。

* 事故原因

気持ちの上ではまだ若いと思い、U字溝が簡単に飛び越えられると思ってしまったが、馬入れまで登ってから畑に入れば良かった。また、畦が崩れており、U字溝の上に足を置こうという気持ちもあった。また、身長は140cmと小柄であり、無理はできない距離であった。なお、現在は持っていないが、携帯電話が必要だと思った。

⑦育苗ハウスで使用する水を汲むため、深いU字溝に降りようとして雪で滑り転倒、 大腿骨頸部骨折

(平成24年 2月 9時頃、U字溝、女性・78歳)

朝 9 時頃、自宅から 500m くらい離れた畑にあるビニールハウスで菊栽培作業をしていた。11 時頃、育苗ハウス内で水が必要になり、近くの U 字溝用水を流れているほんの僅か 1 cm ぐらいの水を柄杓でくみ取ることができるように、せき止めようと考えた。

U 字溝までの土手の長さは 250 cm、45°、U 字溝は幅 60 cm、深



さ 60 cm であった。せき止めようとした日当たりのいい場所の土手にはたくさんの雪が積もっていたので、少し離れたところから降りようとした。地面の上は土色だったので大丈夫と思い、一歩目は良かったが 2 歩目を踏み出したとき、下が凍っており 2m ぐらい滑った。がーデニング用の短靴を履いていたのもいけなかった。

腰から落ち、バギッというような音がした。どこかの骨が折れたと思った。それでも U 字溝には落ちず、途中で止まった。右足がとくに痛かった。そこからは上れなかったので、U 字溝の中に降り、少し昇りやすいところへ行こうとずって行ったが、それが精一杯だった。U 字溝の中でしばらく横になっていた。20 分ぐらい経ったところで、下の氷が溶けて背中が濡れて冷たくなり、泥だらけに汚れてしまった。

たまたま散歩で通りかかった近くの人が異変に気づいてくれた。「首に手を回して」と

言って少し土手の上の方に上げてくれたが、それ以上は無理で、近くの人を呼び、3、4人で土手に上げてもらった。近所の人救急車を呼んでくれた。救急車は倒れているすぐ近くまで入ってくれたので、すぐに病院に搬送された。約15分で12時頃到着した。レントゲン写真を撮って骨折と判明。痛み止め、湿布が処方された。痛いときはブザーで呼んで痛み止めを飲んだ。入院4日目に手術。その後は歩行器を使ってリハビリ。1か月入院。その後も通院してリハビリ。今でも重苦しいときは注射する。1年経たないと回復は難しいようだ。歩くとき、右足が少し下がるようになってしまった。

*** 事故原因**

反対側の斜面は傾斜が緩く、日あたりが良いので凍ってはいなかった。そちらから降りれば良かった。冬は特別な作業でなくても、滑りにくい底の靴を履こうと考えている。

今年は、U字溝の水に頼ることのないように、水の入る入れ物には貯めておくことにした。携帯電話は持っていないが、こういうときは必要だと思った。

現在、用排水路は水量が多く、法面の傾斜がきつく危険箇所となっているが、この事例のように必要に迫られて、「接近」することもあり、その場合の階段や安全柵など、事前の土地区画整理の設計の中で考慮されなければならないと考えられる。